

比曾の穀櫃

歴史の散歩道

冷害に地区で備える

天明の大飢饉(1782~1788年)により財政難に陥った江戸幕府は、寛政2年(1790年)、諸藩に対して「米備蓄令」を出し飢饉に備えさせました。『比曾の穀櫃』もその「寛政の改革」に由来する備蓄穀倉と考えられています。

櫃とは、上から開ける箱のことで、穀櫃は穀物を収納する箱のことです。『比曾の穀櫃』は間口10尺(約3m)奥行き4尺(約1.2m)ほどの小さな粉倉で、昭和時代にトタン屋根に葺き替えられたと伝わります。墨書きで、寛政12年(1800年)の紀年銘が残されています。

この穀櫃には、いざという時に備えて種籾を保存し、困窮した人がここから種籾を借り受けたと考えられています。文久元年(1861年)の「比曾村 困い粉帳」の中には、貯穀・救済・貸付・返納の記録が残っており、この穀櫃が十分に機能していたことがうかがえます。



穀櫃の内部に残る紀年銘。寛政12年(1800年)にこの穀櫃の棟上げを行ったことが記されています。



『比曾の穀櫃』の外観。歴史的価値が認められ令和2年に飯館村指定文化財の指定を受けました。

ふれ愛館だより 交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

読書メッセージコンテスト おすすめの本を教えてください

第24回読書メッセージコンテスト作品募集中心!!

本の楽しさや読書のよさを広める読書活動推進として、今年度も読書メッセージコンテストを実施しています。すでに村内外からメッセージが届いています。

好きな場面や読んでいてどんな気持ちになるのかをメッセージにして伝えてください。入賞者には図書券を贈呈、また、参加者全員に図書券などの参加賞をご用意しています。この本いいよね!そんな気持ちをおたくさんの人につなげていきましょう。

応募用紙は住民課の窓口、交流センター「ふれ愛館」、村のホームページにありますので、ぜひご応募ください。締切は10月13日です。

締切は10月13日

いいいたて イノサル通信

“鳥” 空からの被害を防げ!

これまでは鳥獣対策と言っても、ほぼ獣(=哺乳類)についてでしたが、今回は鳥についてです。飯館村では、カラスとスズメの被害が多いと聞いていますので、主にこの2種類について取り上げます。

■カラス よく見るカラスの中には、ハシブトガラスとハシボソガラスという2種類がいるのを知っていますか。例えば、ハシブトガラスは、生ごみを漁って肉類をよく食べ、ハシボソガラスは、田畑で落ち穂や昆虫をよく食べると言われています。ハシブトガラスとハシボソガラスは、どちらも人里に広く生息していて被害も変わりませんので、対策については区別せずに紹介します。

■スズメ 人にとってとても身近な鳥で、日本全国にいますが、近年は生息環境の悪化により、減少傾向と言われています。



項目	カラス	スズメ
体長	ハシブトガラス:約56cm ハシボソガラス:約50cm	約15cm
生育環境	ハシブトガラス:樹林や住宅 ハシボソガラス:開けた農地など	人家とその周辺の樹林、農地、草地、川原など
被害	雑食性で、飯館村では野菜、トウモロコシが多い	主に種子食で、飯館村ではコメ、ソバ、トウモロコシが多い

対策

鳥類の対策の基本は防鳥網です。そして、何を防ぎたいかで網目のサイズを変える必要があります。なお、あまり糸が細かい網は、強度が弱く、鳥が絡まってしまうことがあるため、注意が必要です。

- ▶ カラス:75mm以下
- ▶ ムクドリ、ヒヨドリ:30mm以下
- ▶ スズメ:20mm以下

※カラスについては、スズメ等と違い、体が糸に触れることを嫌がるため、テグスなどを張ることも有効です。上部は1m間隔でテグスを張り、側面は防鳥網などで防ぎます。

防鳥網やテグスの詳しい設置方法については「農研機構の鳥害対策一増補改訂版」を参照してください。農研機構のウェブサイト<https://www.naro.affrc.go.jp/org/narc/chougai/>からダウンロードできます。

注意!

間違った対策をしていませんか?

- ▶磁石 渡り鳥には磁気で方角を知ることができるものもいますが、多くの鳥は磁力を感じる事ができません。
- ▶超音波 カラスの高い音への聴力は人より悪く、ほとんどの鳥は人に聞こえない超音波を聞くことができません。
- ▶その他かかし、爆音機、カラスの模型、猛禽類の凧等の防鳥機器 一時的に効果がある場合もありますが、すぐに慣れてしまうことが多いです。使用する場合は、収穫直前のできるだけ短い期間にして、設置位置をこまめに変わる等の工夫が必要です。

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する鉄谷さんからののお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

鉄谷 龍之 さん

平成31年4月から同支援員。令和3年から飯館村の鳥獣対策に携わり、今年度から村の主担当。専門は野生動物管理・鳥獣被害防除。